

しんじゅ 新樹

21号

回覧

2009年3月

前橋市のホームページからでもご覧になれます

前橋市 新樹 検索

「新樹」=水と緑のまちをイメージし、男女平等の葉が青々と茂るようにという願いを込めました。

◆特集◆ ことばをどう使う？～ことばも変わる、社会も変わる～… P.2～4

- ・ おじさまインタビュー…………… P.5
- ・ 男女共同参画室だより…………… P.8
- 山田高則さん 真由美さん
- 男女共同参画セミナー開催報告
- ・ 前橋市男女共同参画基本計画（第三次） P.6,7
- ・ 編集後記
- 「まえばしWindプラン2009」策定



元総社中学校美術部フラッグアート作品

* 男女共同参画

「参加」は仲間になることで、「参画」は方針決定の場に加わることです。
女性と男性が、社会の対等なパートナーとして、社会のあらゆる分野に共に参画し、喜びも責任も分かち合う社会を目指しましょう。

ことばをどう

～ことばも変わる、

プロポーズは男性がするのが当たり前？

- E:** プロポーズはどんな言葉でしたか？
- B:** 私はお見合いだったから何も言われなかったな～…
- C:** 私もですよ。
- A:** 私たちの時代はお見合い結婚が多かったですよね。ちなみに私はプロポーズしましたよ。でも内緒です♪
- E:** え！教えてくれないんですか？
- B:** 気になりますね～。
- A:** 私の友人に聞いたら、「君が作った料理が食べたい」とか、「君が入れたコーヒーを毎日飲みたい」なんていうのがありました。
- C:** 男子厨房に入らずの時代っていう感じですね。
- B:** 「俺について来い」というようなプロポーズもありましたよね。
- C:** いかにも男性主導的な感じですね。
- B:** 最近のカップルはどのなの？
- E:** 友人は「もう3年も付き合っているのに、彼氏が何も言ってくれない」って言っていましたよ。
- A:** プロポーズは男性からという意識は変わっていないのでしょうか。
- C:** でも知人の娘さんは積極的にプロポーズをしたそうですよ。
- A:** へえー。男性からが当たり前だと思っていたけど、違うんですね。
- D:** 最近では「そばにいてサポートしたい」とか「一緒に乗り越えていきたい」なんていうのも聞きました。
- E:** プロポーズにもお互いに協力しようという意志が込められているんでしょうね。

プロポーズ集

- ・ 苦労するかもしれないけど一緒に暮らそう。(50代男性)
- ・ そろそろ(実家に)挨拶に行こうか。(40代男性)
- ・ 朝は味噌汁がいいなあ。(50代男性)
- ・ 一生幸せにするから結婚しよう。(50代男性)
- ・ ずーっといろよ。(50代男性)
- ・ 実家に入ろう。(30代男性)
- ・ 一生を共に歩いていきたい。(30代男性)
- ・ そろそろいいんじゃないの？(20代女性)
- ・ 幸せにしてほしいんじゃないの。一緒に幸せになりたいの。(30代女性)
- ・ 二人の未来に笑顔があふれていたらいいな。結婚しようよ。(20代男性)
- ・ お前がお腹すかないように頑張るからな。結婚しよう。(20代男性)
- ・ 結婚してくれませんか？・結婚しよう・結婚してください・結婚する？(10代～70代男女)



あれから〇〇年…！あなたはプロポーズの言葉を覚えていますか？

情熱的なプロポーズだったという方も、プロポーズがなかったという方も、今だから言える言葉をプレゼントしてみてもはどうでしょうか？

夫婦の絆が一層深まるかもしれませんね。

- A:** 60代男性 **D:** 50代男性
B: 60代女性 **E:** 20代男性
C: 50代女性

使う？

社会も変わる～

普段何気なく使っている言葉でも、改めて考えてみると違った意味が見えてくるかもしれません。

「新樹」編集委員5名（A～E）は身近な言葉について考えてみました。

夫婦の呼び名

- E**：第三者に自分の配偶者のことを話す時、どんな風に呼びますか？
- C**：うちは「主人」です。
- A**：「つれあい」ですね。
- B**：名字で呼びます。母も祖母もそうでしたので。
- D**：私は名前ですね。
- E**：「家内」、「奥さん」、「妻」、「旦那」、「夫」なども多いのでは？
- B**：若い夫婦は「嫁」や「旦那」と呼ぶと聞きましたよ。
- C**：テレビで関西の芸人さんが使っていて、流行りもあるみたいですね。深い意味はないのかも。
- E**：そういえば、友人はメールをする時「ヨメ」、「ダンナ」とカ

- タカナを使っているようです。
- D**：カタカナだと、少し違った印象になりますね。
- C**：同じ言葉なのに、不思議ですね。
- A**：「主人」や「家内」は普段何気なく使っているけど、日本の歴史的な背景を感じますね。
- B**：知人の中には、「主人」は「男性が女性より上位」という関係を連想するので使わないという人もいます。
- C**：パートナーへ敬意を示して「主人」と呼ぶ人もいますよね。
- A**：そうなんですか。一つの言葉でも捉え方は様々なんですね。
- C**：目上の人に話す時は「主人」、友人などには「名前」や「お

父さん」と使い分ける人もいますよ。

- D**：呼び方は人それぞれ…その時の都合で呼び方が変わることもあるし、何が良い、何が悪いと決められることではないですね。気持ちが通じ合っていれば、どんな呼び方でもいいのかなと思いました。
- C**：お互いに尊敬し、思いやる気持ちが大切ですね。
- E**：普段気に留めていないような身近なことを、一人ひとりが改めて考えることで、男女共同参画社会に一步でも近づけるといいですね。

コラム

パートナーをどう呼んでいますか？

ある新聞社のアンケートで「おまえ」と言う呼び方への反応を約2万人に聞いたところ、配偶者や恋人にそう呼ばれたら「腹立たしい」「なんとなく不快」との回答が男女共8割あったということです。本来、「おまえ」は「御前」ということで、目上の人に言う言葉だったのに、江戸期から同等や目下に使われる様になり、戦後荒っぽい語感を帯びたようです。本来の意味で考えると、「おまえ」と呼ばれるのも悪くないのかなと思います。

私の周りの友人達（50代後半～60代）は、子どもが生まれてからは「お父さん」「お母さん」と呼び合う人がほとんどでした。あとは「パパ」、「ママ」、名前で呼び合う人が1組ずつ

です。

我が家は、夫からは名前で呼ばれ、私は夫の事を「あなた」と呼びます。両親が同様だったので、違和感なくそのまま続いているのかなと思っています。友人達も同じように、親や周りがそうなのでということのようです。

意識が変わって言葉が変わるのか、言葉が変わって意識が変わるのか。呼び方だけをとってみても、前の代のものをそのまま意識することなく引きずっていく。変わる、変えていく事は難しいことと思いました。

（石田）

あなた♪



<職業の呼称>

- A: 男女に関する言葉という他には何がありますか？
- E: 職業の呼び方はどうでしょう。「スチュワーデス」とか。
- D: アメリカでは1980年代以降からフライトアテンダントと言いつけられたそうですね。
- B: そんなに前からなんですか！？日本では客室乗務員とかキャビンアテンダントって言うようになったのは最近のような気がしますね。
- A: 他に女性の職業というイメージがあるのは…看護かな。
- C: 昔は「看護婦」と言えば文字通り女性の職業でしたからね。
- E: 徐々に男性も増えてきて、男性は看護師と呼ばれていたけど、男女雇用機会均等法をきっかけに、男女統一して看護師になりましたよね。
- B: 同じように変わったのは「保母」、「保父」ですね。
- E: 「保育士」に統一しましたよね。
- A: 新聞やテレビなどのメディアでは、男性が中心だった職業は「女性記者」とか「女子アナ」と、わざわざ「女性」「女子」とつけますよね。逆に女性中心の職場の場合でも「男性」とつけることもありますよね。
- D: 男女とも選べる職業の幅が広がってきたという感じでしょうか。社会が変わってくると、言葉も変わっていくのかもしれませんがね。
- C: でも「女性」「男性」がつかなくなるには時間がかかりそうですね。言葉も社会も同時に変わるということは、簡単な事ではないんですね…

コラム

男性視点の言葉と 女性視点の言葉

私たちが普段使っている言葉の中には、明らかに男性視点で作られたと思われるものが時々見受けられます。例えば、「良妻賢母」は男性が女性を評価していますし、「女史」「婦警」「OL」など女性であることをあえて明示する呼称もあります。

また、漢字のつくりを眺めてみても、女偏の漢字は沢山あるのに、「男」が付く漢字は「勇」「甥」「舅」など数えられるほどしかありません。女性が観察や評価の対象となっていた、男性主体の時代背景が読み取れます。

ところが、近年の若者の間で作られた言葉、いわゆる若者言葉の中には、逆に女性視点で作られたと思われるものが散見されます。例えば、「イケメン」は女性から見てカッコイイ（魅力的な）男性の事ですし、「エロかわいい」は女性から見てセクシーで可愛い女性に対して呼ばれます。

また、最近の「KY（空気読めない）」を代表とするアルファベット略語においても、「FK（ファンデ濃い）」、「GMM（偶然街で会った元カレ）」など若い女性の視点を読み取れるものがあります。言葉の創造にも女性が参画する時代になってきたのかもしれません。

(法橋)

YES, WE CAN! (まずはやってみませんか?)

私たちの世代は、男女平等を声高に論じながらも家事・育児・介護はほとんど妻任せでした。1965年春、某駅から街へ連なる坂道を高校生たちが整然と男女左右に別れて登校する風景に出会いました。群馬の高校別学を実感した瞬間です。

「男女雇用機会均等法」「男女共同参画社会基本法」が作られ、人々の意識もずいぶん変わってきたようです。娘のパートナーは現在、育児休暇中。正月で帰省中、娘がパートナーに分量を教わりながら離乳食を作っている微笑ましい姿がありました。家事・育児・介護に抵抗のない男性や「主夫」希望者も大幅に増えているようです。しかし、前橋市の「男女共同参画に関する市民意識調査」を見ると「方向性には概ね賛成だが、現実には…」との声が多いようです。

確かに、育児中の女性たちが働きたくて働けない現実があります。女性が家事・

育児・介護の大半を課せられ、加えて男性並み労働時間を要求されているからでしょうか。男性にも参加できない多忙さがあるかもしれません。でもこれまで、男性は分の悪い方を女性に渡してきたことは否定できないですね。それが男と女に関わる「言葉」に表れているようです。

「男」「女」にこだわらず、家族全員で食事を作り、育児・介護を行うことで今まで隠れていた各自の才能が開花し、より深まり、豊かになれるとしたら…。新しい家族関係、ひいては平等な社会関係が形成されるとしたら…

CHANGE!

今そのときが来たと、
希望の地平が目の前に開けていると…
そう思いませんか。

(橋本)





おじゃまインタビュー



男女共同参画を積極的に実践しているひとを紹介します



まゆみ たかのり
山田 真由美さん・高則さん
泉沢町在住

土が大好き

長年重機オペレーターとして会社勤めをしてきた高則さんですが、管理職となり、土と触れ合う機会がなくなって寂しくなり、3年前に就農の道を選びました。「子どもたちも父親との時間が増えると喜んでいましたし、その当時はいつも疲れた顔をしていたので就農については反対しませんでした」と真由美さん。

約1ha（ヘクタール）で始めましたが、現在の管理面積は借地を含め16.3haとかなり大規模。大型農業機械を導入し、主に米麦・路地野菜・飼料用小麦を生産しています。

3年という短期間で、規模を拡大するのは大変だったのでは？とお聞きしたところ、「JAの講習会等に積極的に参加し、営農指導員がその都度指導に

来てくれるのでとても助かっている」とのことでした。新規就労者のためのバックアップ体制も、意欲に繋がりますね。

山田さんのお宅では、高則さんの就農を機に、本格的な農地の規模拡大・やりがいのある農業経営を目指し、平成18年5月に高則さんのご両親と家族経営協定を締結。家族全員が認定農業者となりました。家族経営協定の締結により、家族で農業経営について話し合う機会が増え、経営移譲もスムーズに行きつつあるということです。

尊敬する人はお父さん

仕事と子育ての両立は大変では？との質問に、真由美さんは「結婚してからずっと農作業のお手伝いはしてきましたし、特に負担に思う事はありません。現在、経理は私の担当ですが、全て任されてしまうと家族が何もわからなくなってしまうので、誰もがわかるように相談しながらやっています」と顔を見合わせたお二人には、信頼し合い、ご夫婦の歯車がよく噛み合って充実した生活を過ごされている様子が感じられました。

お子さんたちも土に触れるのが大好き。小3の男の子は通学の際、野菜の生育状況を見て報告してくれます。中

学生の女の子は職場体験でキュウリ栽培農家を選んで楽しかったと話してくれたそうです。

また、家族が田畑に出て家を留守にしても、行動範囲にいつも家族がいるという安心感をお子さんたちに与えているようです。ご両親の働く姿を見られるなんてとても幸せですね。

「尊敬する人はお父さんと言っているんですよ」と嬉しそうに話す真由美さんの側で、高則さんは少し照れている様子でした。

目標は農業の法人化

現在、法人化に向けて集落営農組織での検討作業が始まっており、集落または個人で農業生産法人（株式会社）化する事が一番の目標だそうです。

農業経営への想いを熱く語る高則さんの側で、真由美さんが時々フォローされ、本当に意気の合ったパートナーという印象を受けました。

家族が互いに共同経営者として意欲的に経営に参画されているというお話に元気をいただき、またお子さんたちのお話には、訪問した日の小春日のような温もりを分けていただきました。

（取材・記事／鈴木、橋本）

※ 認定農業者＝農業発展を目指す意欲ある農業者が作成した計画（農業経営改善計画）を農業委員会（前橋市の場合）に申請し、認定された人

家族経営協定ってなに？

農業経営を発展させ、ゆとりある暮らしを実現させるためには、快適な労働環境づくり、農作業や経営の役割分担、家族一人ひとりの経営参画などが必要となります。家族経営協定とは、農業経営や生活、将来の目標などについて家族が話し合い、文書にまとめることです。



メリットは？

- ・文書にすることで、一層の意欲や責任が持てるようになります。
- ・信頼感が増し、働きやすい環境作りに役立ちます。
- ・協定により効率的な経営が行われ、職業としての農業経営が確立します。
- ・話し合う機会が増え、経営の内容を家族みんなが把握できます。
- ・労働時間や休日を決めることにより、メリハリがつき、より効率化が図れます。

前橋市男女共同参画基本計画（第三次）

「まえばしWindプラン2009」を平成21年3

前橋市では、平成15年に「まえばし男女共同参画推進条例」を制定し、翌年基本計画「まえばしWindプラン2004」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みを行ってきました。

しかし、長い間に形成された固定的性別役割分担意識は未だ根強く、様々な分野で解決しなければならない多くの課題が残されています。

今までの成果と課題を踏まえ、市・市民・事業者が力を合わせ、総合的かつ計画的に推進するために平成21年度から5年間の前橋市男女共同参画基本計画（第三次）「まえばしWindプラン2009」を策定しましたので、その一部を紹介します。

（詳細は前橋市のホームページでご覧になれます）

家庭では

- * 家族が協力して、家事、子育て、介護などを行っています。
- * 家族全員が喜びも責任も分かち合い、明るく楽しい家庭生活を送っています。
- * 誰もが自立し、自分らしく心豊かな暮らしをしています。



職場では

- * 男女の均等な機会と待遇が確保されています。
- * 多様な働き方が選択でき、男女がともに個性と能力を十分に発揮しています。
- * ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）を推進しています。



どんなふうに進める

まえばし男女共同参画推進条例第3条に基づく基本理念「まえばしWindプラン2004」の施策を評価した上で重点化を図る施策の方向と16の主な施策を設定し、計画の進捗の評

基本目標Ⅰ

一人ひとりが尊重される～まえばし

施策の方向1 人権尊重・男女平等意識を高めます

主な施策

- (1) 固定的な性別役割分担意識の解消に向けた市民への働きかけ
- (2) 家庭・学校・地域における男女平等教育・学習の推進
- (3) 多文化共生と国際理解の推進

施策の方向2 互いの性を尊重する社会づくりを応援します

主な施策

- (1) 生涯を通じた健康づくりへの支援
- (2) 女性に対する暴力の根絶

基本目標Ⅱ

みんなが主役になれ

施策の方向1 男女が一緒に考え、

主な施策

- (1) 市の方針決定の場における女性の参画
- (2) 女性リーダーの発掘・育成・活躍の促進

施策の方向2 女性が活躍する範囲を拡大する

主な施策

- (1) 男女平等を阻む制度・慣行の見直し
- (2) 様々な分野への女性の参画



まえばしがめざす男女共同参画社会って？
市民一人ひとりが、お互いを大切にし、
性別にかかわらず、個性を輝かせて
生き生きと暮らすことができる社会

(まえばし男女共同参画推進条例前文)

月に策定しました！

男女共同参画は特定の人のためのものではありません。

これを推進することによって社会の様々なところに変化が現れるようになります。

例えば、

学校では

- * 性別にとらわれず、一人ひとりが個性や能力を伸ばしています。
- * 子どもが互いに尊重し合っています。
- * 進学や就職において、個人の意思や能力を尊重した進路選択がされています。



地域では

- * 男女がともに様々な地域活動やボランティア活動に積極的に参加し、住みやすい地域づくりに取り組んでいます。
- * 固定的な性別役割分担意識に基づく古い慣習やしきたりがなく、誰もが尊重されています。
- * 様々な分野での活躍を可能にする学習機会が、生涯を通じて提供されています。



基本目標Ⅲ

多様なライフスタイルを実現できる

～まえばし

施策の方向1 男女がいきいきと働けるよう支援します

主な施策

- (1) 職場における男女共同参画の推進
- (2) 女性のチャレンジ支援
- (3) 農業分野への男女共同参画の推進

施策の方向2 安心して子育て・介護ができる暮らしをささえます

主な施策

- (1) 子育て支援の充実
- (2) 高齢者・障害者の生活支援の充実

施策の方向2 ゆとりある生活を推進します

主な施策

- (1) ワーク・ライフ・バランスの普及・促進
- (2) 多様な活動への男女の参画促進

の？

のもとに、前計画「まえばし」の3つの基本目標、7つをいながら進めます。

る～まえばし

決めることを推進します

の登用促進
用

圏を広げます

直し

男女共同参画室だより

■平成20年度男女共同参画セミナー 「一緒に笑いたい あなたと ～今そして未来～」開催報告

男女共同参画セミナーとは？

今年で8回目、隔年で開催しています。公募による市民ボランティアの実行委員が、実際に企画・運営を行う市民協働のセミナーです。

今年は幅広い年代の個性豊かな8名がメンバーとしてそろいました。

心のある言葉を上手に選んで 言葉に出して言う

今回の講師は、フリーアナウンサーの広瀬久美子さんと、上方落語家の林家花丸さん。講演あり、落語あり、トークショーありと盛りだくさんの内容になりました。



広瀬さんは「女の器量、男の器量」と題し、ご自身の体験を交えながらユーモアたっぷりに、「男女共同参画に欠かせないものは、『きちんとものを言うこと』『意識の変革』『自立』『教育』、この4つです。その中で共通するのは、どれだけ相手の立場に立てるか、自分がその人の立場になったらどうだろうと考えられる器の大きさです」と話されました。

その後、花丸さんが古典落語「時うどん」を披露。また、二人のトークショーでは、下着は自分で買っていますかと客席に問いかけたり、家事分担や地域、職場での体験談を軸に「手の空いている方、できる方があったらいい。



男性の役割、女性の役割という風に、なんとなく線引きするのではなく、できることならやればいいんじゃないか」というお話がありました。



名演技に拍手！

15分の幕間には、実行委員が特に力をそそいだ寸劇を披露。「ある朝の熟年夫婦の会話」「おごり？わりかん？」「5時から男のつぶやき」「自治会長選出」と題し、身近なテーマで男女共同参画について考えてもらおうと、脚本や演技は何度も試行錯誤を重ねました。当日の熟演にたくさんの笑いと拍手をもらい、実行委員もホッとしました。



みんなが笑顔になれる未来へ

「毎年開催してほしい」「男女共同参画についてわかりやすく、勉強になった」「とにかく楽しかった」「久しぶりに腹の底から笑った」「夫婦で参加してよかった」など、アンケートにはたくさんのご意見、ご感想をいただきました。

このセミナーで生まれたたくさんの笑いの中から、男女共同参画の輪を広げていただけるといいなと感じました。

編集後記

人は言葉で物事を考え、伝え、理解します。現実を知り、変えていくためにも、大本の言葉から問い直そうという意識で特集を組みました。おかげさまで21号が完成し、多くの関係者のご協力に感謝します。(高坂)

発行日：平成21年3月31日 編集：「新樹」編集委員

発行：前橋市いきいき生活課 男女共同参画室 〒371-0023 前橋市本町一丁目5-2 職員研修会館2F

直通電話：027-898-6517 FAX：027-221-6200 メールアドレス：sankaku@city.maebashi.gunma.jp

<<21号のご意見・ご感想をお寄せください>>